

日本共産党は **議会改革** をすすめます

もっと市民の声が届く
ガラス張りの市議会に。

日本共産党は
議会の改革にとりこんでいます。

日本共産党の提案

- 市議会の本会議につづき、委員会の審議状況もテレビカメラで中継
- 本会議や委員会での市民の発言
- 議員1人当たり1月50万円の政務調査費は減額し、領収書は全面公開
- 市議会出席1日1万円の費用弁償は廃止をふくめ見直す
- 4年に1度の慣例的な議員海外視察は中止
- 多額の議員報酬は市民の声を聞き適正化
- 企業・団体献金を禁止
- 議会改革は市民公開・市民参加ですめる

率先して実行しています

日本共産党は提案だけでなく、独自にできることは率先して実行しています。

- 政務調査費の1円以上の領収書を全面公開しています(他の会派の公表は1万円以上)
- 費用弁償は受け取っていません。
- 慣例的な海外視察には参加しません。
- 市政報告や要求アンケート活動をおこない、政策提案力を高めています。
- 請願の紹介件数は市議会の会派のなかで最多です。

議員が多い?

定数削減は民意の削減

議員の仕事は住民の意思を行政に届けること。議員が少ないと届きにくくなります。地方自治法が定めている名古屋市議の定数は上限88人。現在75人に減らされています。さらに「定数を半減。小選挙区制導入も」(河村市長)となったら、市民の多様な意思がばっさり切り捨てられます。定数の削減は民意の削減です。民主主義の観点から慎重に考えなければなりません。

【民主党21人】うえそのふさえ(西)うかい春美(中村)おかどめ繁広(熱田)鎌倉安男(守山)久野浩平(中川)橋本ひろき(南)服部将也(北)渡辺房一(瑞穂)梅村邦子(千種)梅村麻美子(東)おくむら文洋(昭和)斎藤まこと(千種)高吉英樹(中村)ちかざわ昌行(名東)日比健太郎(名東)諸隈修身(天白)岡本やすひろ(緑)田中里佳(天白)山本久樹(緑)山田昌弘(西)安井伸治(港)

【自民党11人】東郷哲也(守山)中里高之(緑)ふじた和秀(瑞穂)水平かずえ(昭和)中田ちづこ(中)丹羽ひろし(名東)前田有一(瑞穂)渡辺義郎(北)桜井治幸(千種)中川貴元(東)小出昭司(中村)

【公明党9人】加藤武夫(緑)木下優(中川)小島七郎(昭和)田辺雄一(千種)長谷川由美子(北)こんぼのぶお(守山)中村満(中村)ばばのりこ(中川)福田誠治(南)

【新会派気魄】杉山ひとし(緑)

【民主党クラブ】のりたけ勲仁(中)

海外視察に行った議員 (2007年~2009年)

暮らしの相談はお気軽に

- 東・北・西・中区は… TEL912-6096
- 千種・名東・守山区は… TEL762-6820
- 中村・熱田・中川区は… TEL411-4161
- 南・港・瑞穂区は… TEL652-1841
- 昭和・緑・天白区は… TEL807-1092
- 愛知「赤旗」無料生活・法律相談所 TEL262-2804



お寄せください

2010年 安心と希望の名古屋に

市立城西病院の廃止 反対、存続を求める 住民運動

障害者福祉を切らな しく市民行進

市立環境科学研究所の廃止計画に抗議する 環境運動の人たち

「減税」名目の福祉 削減に反対する市 役所前集会

公立保育園の廃止 反対、待機児童解消 を求める市民集会

昨年来、河村市政の問題点があられ、「福祉を削らないで」と市民の運動が広がっています。2010年こそ安心と希望の年に。日本共産党市議団はがんばります。

市民の皆さんとともに 福祉・景気がんばる



あなたの思いを名古屋市政へ

現実政治を動かす日本共産党

全員発言

11月・12月にひらかれた名古屋市議会で、日本共産党名古屋市議団は8人全員が本会議で発言し、市民の願いを代弁しました。

市長特別秘書は不要。生活応援の補正予算に



江上博之議員

金持ち減税でなく庶民減税を



さとう典生議員

失業者・野宿者の生活支援を



くれまつ順子議員

国保料引き下げ、下請製造業者の固定経費補助を



梅原紀美子議員

市長の暴走をチエックする議会は大切。市は住民福祉に責任果たせ



田口一登議員

大幅賃下げやめ内需の拡大を



かとう典子議員

問題多い市単独の陽子線がん治療施設建設。がんの総合政策を



山口清明議員

「減税」回美の福祉削減は許されない



わしの恵子議員

共産党原案で意見書提出へ

11月市議会では、日本共産党が提案した国への意見書「保育所の最低基準を守れ」「労働者派遣法の抜本改正を」の2件が全会一致で可決されました。

新年度予算に要望

日本共産党市議団は12月25日、市長にたいし新年度予算の詳細要望書を提出(写真下)。河村「減税」と不況による減収から福祉・市民サービスを削減しないよう強く求めました。



福祉・民主主義があぶない！

河村「改革」

河村市政ができて9カ月。市民の期待にそむく、あぶない強権的な政治があらわれ、市民の失望感が広がっています。

保育園、病院の市営廃止

河村市長は、市立保育園の統廃合計画(8月)、城西病院の市営廃止、緑市民病院に民間の指定管理者制度導入方針(12月)を出しました。

環境科学研究所の廃止

河村「行革」プランを発表。環境汚染研究に貢献してきた環境科学研究所を廃止しようとしています。

動物園でビール販売

動物園は準教育施設。河村市長の「ツルの一声」でビール販売解禁に。こどもは反対、市民からも疑問の声。

南京大虐殺の事実否定

河村市長は市議会で南京大虐殺を「誤解」と否定。歴史教科書採択に介入姿勢も。

市議選に小選挙区制

「議会改革」の名で市議定数の半減や小選挙区制導入を公言。議会を弱体化し、市長の強権政治をつくるねらいがはっきりしてきました。

共産党は「生活支援の庶民減税」を提案

市議会では「公約違反の大企業・金持ち優遇減税」か、「生活支援の庶民減税」かが、問われました。日本共産党は、財政にムリのない庶民減税を提案。一方、河村市長の減税は「金持ちはゼロ」(マニフェスト)に違反する大企業・金持ち減税でした。これに民主・自民・公明が賛成しました。「市の見通しでは減税による減収分161億円を含め400億円強の歳入不足。このままでは予算が組めない」「市民サービスを低下させないと市長は再三強調するが、本当か」(「中日」12月23日付)——不安の声がでています。市民サービスを守るため日本共産党の役割がますます重要です。

河村市長は「公約違反の金持ち減税」を強行。財政・福祉に不安

市民税減税